

万引対策百般

TOKYO立ち

余話(2)

新型ウィルス対策に犯罪学・防犯理論を役立てる



NPO法人 全国万引犯罪防止機構

2月21日(金)夕刻、新型コロナウイルス感染拡大のために、セキユーティシヨー2020は中止と発表があった。その時点で同じ会場で予定していたJ.E.A.S.ブース展示も、3月3日(火)のJ.E.A.S.セミナーも無くなり、J.E.A.S.セミナーの小売業向け推奨額認証システム制度説明会は普及が加速している。顔認証システムの安全利用のためにも、対象者である顔認証を製造・輸入・販売・運用を行っている企業向けに、こうした万引対策百般の朝に腹を決め、当初の3月3日に報道機関への説明会を実施することにした。



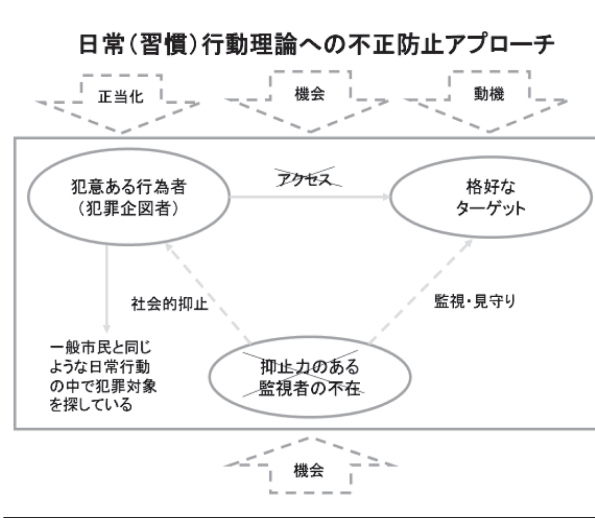
かばんの中にシールド材が入っている様子

翌日の7時台のNHKニュースで全国に流れた。このニュースによってこの特殊なバッグの件は小売業者だけでなく、多くの警察官の関心を集めた。大量窃盗団は一瞬のうちに特殊バッグに対象商

品を入れる。見張りがあるのに、堂々と特殊バッグにお目当ての商品を入れる。不審動作検知機器での検知は難しい。仮に店員が駆け付けたときには、既に別の店に向かっているという。もし、店舗に犯行映像が残っているならば、その映像を顔認証システムに入れることで再来店時への備えができる。実際、各店舗の顔認証システムを集中管理して、全店で不明ロスを平

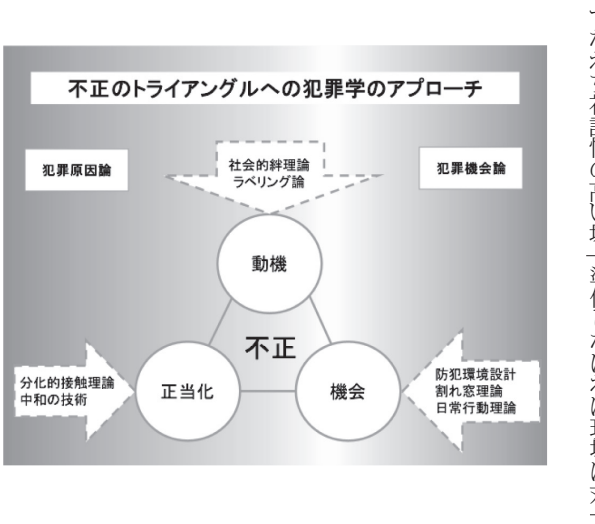
分にしたデイスカウントチェンがある。3日に説明会をやった。見えない敵に負けたと戻らぬ監督や選手たちの無念さがTVから流れた。同時に、強面有名人の中国の華春瑩(フアンチン)報道官が自身のツイートを日本語で「憂いのない春と一緒に」という融和のメッセージを掲載し話題になった。我々にもLPGAガジン役員のジャック氏から激励のメ

ルが届いた。私達が何らかの形で力になれるならば、遠慮なくお知らせ下さい」と書かれていた。自国が大変なのに、日本をこの気にあけてくれる人がいる。感謝。総合防犯設備士デキストにある「リスク」の定義は「リスクとは、安全で平和な生活と組織活動の継続を阻害する可能性又は危険性をいう。リスクはリスクの価値、脅威、ぜい弱性の結果として想定される」とある。



これは犯罪の原因を追究し、根この部分から改善を目指す伝統的な犯罪対策であり、主として重犯取組りに重点を置いていた。しかし、それだけでは悪化の一途をたどる犯罪件数を抑え込むことができなかった。そこで、犯罪原因論による対応を補完する考え方として登場したのが犯罪機会論である。犯罪機会論とは、犯罪を発生させる機会が与えられなければ、犯罪者企図者は犯罪を思いとどまると考える立場である。つまり、

ス権限の整備、整理整頓(盗難ならスペースがきまるので早く発見できる)など、犯罪に強い3要素のうち、ハード面を重視する考えが「防犯環境設計」であり、ソフト面を重視する考えが「割れ窓理論」だ。今回の件では、3月4日(水)愛知県民の感染者が「コロナウィルス」をうつしてやる」など家族に言い、市内の飲食店を2件ハシゴしたため、その飲食店で勤務する30代の女性従業員を感染させた。それより一カ月前の2月5日(水)に、中国の高裁は「新型コロナウィルス故意の拡散は死刑」だと通知していた。死刑は論外だがそれ相当の刑罰や管理・通報体制を準備しなければ現場は対



「不正」の中心には「動機」「正当化」「機会」があり、それぞれが「不正」を促す要因となっている。この図表は、犯罪学のアプローチを示している。動機は「社会的絆理論(ラベリング論)」で説明され、正当化は「分化的接触理論(中和の技術)」で説明され、機会は「防犯環境設計(割れ窓理論/日常行動理論)」で説明される。

「不正」の中心には「動機」「正当化」「機会」があり、それぞれが「不正」を促す要因となっている。この図表は、犯罪学のアプローチを示している。動機は「社会的絆理論(ラベリング論)」で説明され、正当化は「分化的接触理論(中和の技術)」で説明され、機会は「防犯環境設計(割れ窓理論/日常行動理論)」で説明される。

「不正」の中心には「動機」「正当化」「機会」があり、それぞれが「不正」を促す要因となっている。この図表は、犯罪学のアプローチを示している。動機は「社会的絆理論(ラベリング論)」で説明され、正当化は「分化的接触理論(中和の技術)」で説明され、機会は「防犯環境設計(割れ窓理論/日常行動理論)」で説明される。

「不正」の中心には「動機」「正当化」「機会」があり、それぞれが「不正」を促す要因となっている。この図表は、犯罪学のアプローチを示している。動機は「社会的絆理論(ラベリング論)」で説明され、正当化は「分化的接触理論(中和の技術)」で説明され、機会は「防犯環境設計(割れ窓理論/日常行動理論)」で説明される。

「不正」の中心には「動機」「正当化」「機会」があり、それぞれが「不正」を促す要因となっている。この図表は、犯罪学のアプローチを示している。動機は「社会的絆理論(ラベリング論)」で説明され、正当化は「分化的接触理論(中和の技術)」で説明され、機会は「防犯環境設計(割れ窓理論/日常行動理論)」で説明される。

「不正」の中心には「動機」「正当化」「機会」があり、それぞれが「不正」を促す要因となっている。この図表は、犯罪学のアプローチを示している。動機は「社会的絆理論(ラベリング論)」で説明され、正当化は「分化的接触理論(中和の技術)」で説明され、機会は「防犯環境設計(割れ窓理論/日常行動理論)」で説明される。

「不正」の中心には「動機」「正当化」「機会」があり、それぞれが「不正」を促す要因となっている。この図表は、犯罪学のアプローチを示している。動機は「社会的絆理論(ラベリング論)」で説明され、正当化は「分化的接触理論(中和の技術)」で説明され、機会は「防犯環境設計(割れ窓理論/日常行動理論)」で説明される。

「不正」の中心には「動機」「正当化」「機会」があり、それぞれが「不正」を促す要因となっている。この図表は、犯罪学のアプローチを示している。動機は「社会的絆理論(ラベリング論)」で説明され、正当化は「分化的接触理論(中和の技術)」で説明され、機会は「防犯環境設計(割れ窓理論/日常行動理論)」で説明される。

「不正」の中心には「動機」「正当化」「機会」があり、それぞれが「不正」を促す要因となっている。この図表は、犯罪学のアプローチを示している。動機は「社会的絆理論(ラベリング論)」で説明され、正当化は「分化的接触理論(中和の技術)」で説明され、機会は「防犯環境設計(割れ窓理論/日常行動理論)」で説明される。

「不正」の中心には「動機」「正当化」「機会」があり、それぞれが「不正」を促す要因となっている。この図表は、犯罪学のアプローチを示している。動機は「社会的絆理論(ラベリング論)」で説明され、正当化は「分化的接触理論(中和の技術)」で説明され、機会は「防犯環境設計(割れ窓理論/日常行動理論)」で説明される。

「不正」の中心には「動機」「正当化」「機会」があり、それぞれが「不正」を促す要因となっている。この図表は、犯罪学のアプローチを示している。動機は「社会的絆理論(ラベリング論)」で説明され、正当化は「分化的接触理論(中和の技術)」で説明され、機会は「防犯環境設計(割れ窓理論/日常行動理論)」で説明される。

「不正」の中心には「動機」「正当化」「機会」があり、それぞれが「不正」を促す要因となっている。この図表は、犯罪学のアプローチを示している。動機は「社会的絆理論(ラベリング論)」で説明され、正当化は「分化的接触理論(中和の技術)」で説明され、機会は「防犯環境設計(割れ窓理論/日常行動理論)」で説明される。

「不正」の中心には「動機」「正当化」「機会」があり、それぞれが「不正」を促す要因となっている。この図表は、犯罪学のアプローチを示している。動機は「社会的絆理論(ラベリング論)」で説明され、正当化は「分化的接触理論(中和の技術)」で説明され、機会は「防犯環境設計(割れ窓理論/日常行動理論)」で説明される。

「不正」の中心には「動機」「正当化」「機会」があり、それぞれが「不正」を促す要因となっている。この図表は、犯罪学のアプローチを示している。動機は「社会的絆理論(ラベリング論)」で説明され、正当化は「分化的接触理論(中和の技術)」で説明され、機会は「防犯環境設計(割れ窓理論/日常行動理論)」で説明される。

「不正」の中心には「動機」「正当化」「機会」があり、それぞれが「不正」を促す要因となっている。この図表は、犯罪学のアプローチを示している。動機は「社会的絆理論(ラベリング論)」で説明され、正当化は「分化的接触理論(中和の技術)」で説明され、機会は「防犯環境設計(割れ窓理論/日常行動理論)」で説明される。

「不正」の中心には「動機」「正当化」「機会」があり、それぞれが「不正」を促す要因となっている。この図表は、犯罪学のアプローチを示している。動機は「社会的絆理論(ラベリング論)」で説明され、正当化は「分化的接触理論(中和の技術)」で説明され、機会は「防犯環境設計(割れ窓理論/日常行動理論)」で説明される。

「不正」の中心には「動機」「正当化」「機会」があり、それぞれが「不正」を促す要因となっている。この図表は、犯罪学のアプローチを示している。動機は「社会的絆理論(ラベリング論)」で説明され、正当化は「分化的接触理論(中和の技術)」で説明され、機会は「防犯環境設計(割れ窓理論/日常行動理論)」で説明される。

「不正」の中心には「動機」「正当化」「機会」があり、それぞれが「不正」を促す要因となっている。この図表は、犯罪学のアプローチを示している。動機は「社会的絆理論(ラベリング論)」で説明され、正当化は「分化的接触理論(中和の技術)」で説明され、機会は「防犯環境設計(割れ窓理論/日常行動理論)」で説明される。

「不正」の中心には「動機」「正当化」「機会」があり、それぞれが「不正」を促す要因となっている。この図表は、犯罪学のアプローチを示している。動機は「社会的絆理論(ラベリング論)」で説明され、正当化は「分化的接触理論(中和の技術)」で説明され、機会は「防犯環境設計(割れ窓理論/日常行動理論)」で説明される。

「不正」の中心には「動機」「正当化」「機会」があり、それぞれが「不正」を促す要因となっている。この図表は、犯罪学のアプローチを示している。動機は「社会的絆理論(ラベリング論)」で説明され、正当化は「分化的接触理論(中和の技術)」で説明され、機会は「防犯環境設計(割れ窓理論/日常行動理論)」で説明される。

「不正」の中心には「動機」「正当化」「機会」があり、それぞれが「不正」を促す要因となっている。この図表は、犯罪学のアプローチを示している。動機は「社会的絆理論(ラベリング論)」で説明され、正当化は「分化的接触理論(中和の技術)」で説明され、機会は「防犯環境設計(割れ窓理論/日常行動理論)」で説明される。

「不正」の中心には「動機」「正当化」「機会」があり、それぞれが「不正」を促す要因となっている。この図表は、犯罪学のアプローチを示している。動機は「社会的絆理論(ラベリング論)」で説明され、正当化は「分化的接触理論(中和の技術)」で説明され、機会は「防犯環境設計(割れ窓理論/日常行動理論)」で説明される。

防犯環境設計	割れ窓理論
ハード面の対策	ソフト面の対策
重要な概念:「恒常性」「区画性」「視認性(無死角性)」	重要な概念:「管理者意識」「縄張意識」「当事者意識」
1971年 レイ・ジェフリー(フロリダ州立大学)	1969年 心理学者フィリップ・ジンバルド(スタンフォード大学)
意味は、①適切なデザインと建築環境の効率的な利用で、犯罪の発生及び犯罪に対する恐怖を取り除き、Quality of Lifeを改善できる。②環境で人間の行動はコントロールできる。デザインによって建物の本来の目的以外の利用を取り除くことができる。	1982年 犯罪学者ジョージ・ケリングとジェームズ・Q・ウィルソンが、「アトランティック・マンズリー」誌上に割れ窓理論を発表した。この論文で初めて“Broken Windows Theory”という用語が用いられた。治安を回復させるポイントは、一見無害であったり、軽微な秩序違反行為でも取り締まる。(ゴミの分別、落書き)警察職員による徒歩パトロールや交通違反の取り締まりを強化する。地域社会の構成員は警察職員に協力し、秩序の維持に努力する。

	犯罪の強い要素	ハードな要素	ソフトな要素
標的	抵抗性 ...犯罪者から加わる力を押し返そうとすること	恒常性 ...一定不変なこと	管理者意識 ...望ましい状態を維持しようと思うこと
場所(領域)	領域性 ...犯罪者の力が及ばない範囲を明確にすること	区画性 ...区切られていること	縄張意識 ...侵入は許さないと思うこと
	監視性 ...犯罪者の行動を把握できること	視認性(無死角性) ...見通しがきかない場所がないこと	当事者意識 ...自分自身の問題としてとらえること

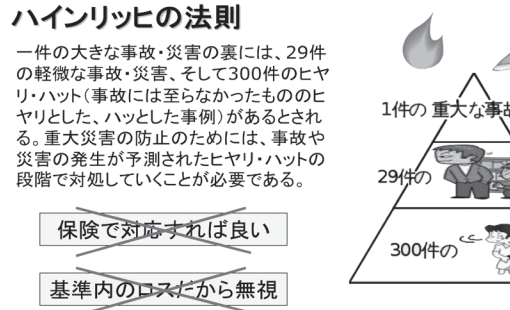
犯罪機会論の概要
Crime Opportunity Theory

犯罪機会論を分解すると「抵抗性」「領域性」「監視性」の3要素になります。これは「犯罪に強い3要素」とも呼ばれています。万引きの増減が起こったときにその要因をこの3要素に当てはめると、より明確で妥当性のある分析が出来ます。また、そのような分析をしておかないと問題の根本解決には至りません。たとえば商品管理システムを導入した店舗で、1年間はロスが下がったが、導入した店長が異動になったあとロスが悪化しはじめた。店長の異動がロスの原因? このような結果論だと対策が打てません。その間のプロセスを「抵抗性」「領域性」「監視性」の3要素に分解してみるとことで本当の原因を正確に掴むことができます。

- 抵抗性 表でいう抵抗性とは、犯罪者から加わる力を押し返そうとすることであり、ハード面の恒常性(一定不変なこと)とソフト面の管理意識(望ましい状態を維持しようと思うこと)があります。
- 領域性 領域性とは、犯罪者の力が及ばない範囲を明確にすることであり、ハード面の区画性(区切られていること)とソフト面の縄張意識(侵入は許さないと思うこと)があります。
- 監視性 監視性とは、犯罪者の行動を把握できることであり、ハード面の視認性(見通しのきかない場所がないこと)とソフト面の当事者意識(自分自身の問題としてとらえること)があります。

全国万引防止機構(通称:マンボウ)
万引撲滅のための戦略を本気で提言・実践する小売業界を中心に組織化されたNPO法人
文:事務局(稲本義範)

悪質化・大事件の発生



一件の大きな事故・災害の裏には、29件の軽微な事故・災害、そして300件のヒヤリ・ハット(事故には至らなかったもののヒヤリとした、ハットとした事例)があるといわれる。重大災害の防止のためには、事故や災害の発生が予測されたヒヤリ・ハットの段階で対処していく必要がある。

「不正」の中心には「動機」「正当化」「機会」があり、それぞれが「不正」を促す要因となっている。この図表は、犯罪学のアプローチを示している。動機は「社会的絆理論(ラベリング論)」で説明され、正当化は「分化的接触理論(中和の技術)」で説明され、機会は「防犯環境設計(割れ窓理論/日常行動理論)」で説明される。

「不正」の中心には「動機」「正当化」「機会」があり、それぞれが「不正」を促す要因となっている。この図表は、犯罪学のアプローチを示している。動機は「社会的絆理論(ラベリング論)」で説明され、正当化は「分化的接触理論(中和の技術)」で説明され、機会は「防犯環境設計(割れ窓理論/日常行動理論)」で説明される。

